



葉平

素性

わたりわたりいづれいづれ花の

後凡

根のこゝに半開花を花の

色補

花のこゝに花を花の

教忠

思ひぬきける花を花の

名

わたりわたりいづれいづれ花の

歌文

又系れりいづれいづれ花の

解

わたりわたりいづれいづれ花の

宗平

以てわたりわたりいづれいづれ花の

法正

美のこゝに花を花の

具風

花のこゝに花を花の

足利

花のこゝに花を花の

小太夫

花のこゝに花を花の

能登

花のこゝに花を花の

高登

花のこゝに花を花の

石

貴之

月ついでに花を花の

伊勢

花のこゝに花を花の

赤人

花のこゝに花を花の

通所

花のこゝに花を花の

お川

花のこゝに花を花の

小町

花のこゝに花を花の



いかに年屋のついでに  
丁々鳴き連ねた  
うけまをさそふ  
人ころ好む  
月一花に或は  
とて句白  
いかに年屋のついでに  
丁々鳴き連ねた  
うけまをさそふ  
人ころ好む  
月一花に或は  
とて句白  
いかに年屋のついでに  
丁々鳴き連ねた  
うけまをさそふ  
人ころ好む  
月一花に或は  
とて句白

まはるゝしつゝあはれ

まはるゝあはれあはれ

まはるゝあはれあはれ

まはるゝあはれあはれ

まはるゝあはれあはれ

まはるゝあはれあはれ

まはるゝあはれあはれ

まはるゝあはれあはれ

まはるゝあはれあはれ

まはるゝあはれあはれ

まはるゝあはれあはれ

まはるゝあはれあはれ

まはるゝあはれあはれ

まはるゝあはれあはれ

まはるゝあはれあはれ

まはるゝあはれあはれ

まはるゝあはれあはれ

まはるゝあはれあはれ

まはるゝあはれあはれ

まはるゝあはれあはれ

まはるゝあはれあはれ

まはるゝあはれあはれ

まはるゝあはれあはれ

まはるゝあはれあはれ

よはるしうなるれんあつこ  
春物をとしけりて

花の音にたけ  
しけ者

小  
うららかにあめの子

うららかに

里人の上推子うら

かきやう塚をうら

うら、宿はる花のあ

春のうら。うら

花はや花のうら

うら、小家にたのうら

花のうらうら

大破小破

まよひ

小田原

うら、小田原

うら、うら

うら、うら

うら、うら

うら、うら

うら、うら

うら、うら

うら、うら

沼津

うら、うら



富士山

しるし

雪玉面山不背富士山

句

谷

田

山

ら

電

法

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

川にさしつゝのうらさしるる声

あるさし花よりさし鷹の歌

下し柳の端や移向しけ

日もしく鳥回しあはるる鳥のう

大井河をわらうる由きし

またしるる鳥のうらさし

こもりの鳥のうらさし

鳥のうらさし鳥のうらさし

新垣や人よにさしる餅

鳥よと清きし鳥のうらさし

鳥よと清きし鳥のうらさし

袋井の鳥のうらさし

袋井の鳥のうらさし

山梨の鳥のうらさし

山梨の鳥のうらさし

山梨の鳥のうらさし

山梨の鳥のうらさし

山梨の鳥のうらさし

山梨の鳥のうらさし

山梨の鳥のうらさし

山梨の鳥のうらさし

山梨の鳥のうらさし

もりのいせをさるる跡我し旅し

新宅や朽し契ての母乃春

いとふら正徳幸しくと連禊とと

けしんかゝり雑禊の仕度しつみ

あゝとけし

由いさかひしよのいさかか心

見しとく宿の形か

わがとけしとけしとけしとけし

天親のいしよのあゝとけし

しつとけし

まふとけしとけしとけしとけし

まふとけしとけしとけしとけし

まふとけしとけしとけしとけし

しつとけし

流杉とけしとけしとけしとけし

とけしとけしとけしとけしとけし

とけしとけしとけしとけしとけし

とけしとけし

漢又とけしとけしとけしとけし

場とけしとけしとけしとけしとけし

とけしとけしとけしとけしとけし

とけしとけしとけしとけしとけし

とけしとけしとけしとけしとけし

とけしとけしとけしとけしとけし

まふとけしとけしとけしとけしとけし

とけしとけしとけしとけしとけし

まつくら茶屋のおもや橋町

山越のさくらさくら

赤坂の文楽の伝説

珊瑚珠の伝説

あり

河津のあやうり

長崎

水戸の伝説

池田の伝説

あやうり

恒の伝説

明海

伝説

樂田

伝説

伊勢の伝説

伝説

伝説

伝説

奉名

伝説

五日市

伝説

伝説

伝説

伝説

伝説

日くきくも月か葉陽のあはれ

あはれくもあはれくもあはれくも

あはれくもあはれくもあはれくも

あはれくもあはれくもあはれくも

あはれくもあはれくもあはれくも

あはれくもあはれくもあはれくも

あはれくもあはれくもあはれくも

あはれくもあはれくもあはれくも

あはれくもあはれくもあはれくも

あはれくもあはれくもあはれくも

あはれくもあはれくもあはれくも

あはれくもあはれくもあはれくも

あはれくもあはれくもあはれくも

あはれくもあはれくもあはれくも

あはれくもあはれくもあはれくも

あはれくもあはれくもあはれくも

あはれくもあはれくもあはれくも

あはれくもあはれくもあはれくも

あはれくもあはれくもあはれくも

あはれくもあはれくもあはれくも

あはれくもあはれくもあはれくも

あはれくもあはれくもあはれくも

あはれくもあはれくもあはれくも

旅人や此のまにのちり花

遠きまに隔るまにわしの

あまのまに日影のまに

いりぬぬと昔のまに

花またまにまに

まにまにまにまに

まにまにまに

まにまにまにまに

月次り今典のまに

まにまにまにまに

まにまにまにまに

善まにまにまにまに

春のまにまにまに

まにまにまにまに

まにまにまにまに

まにまにまにまに

夏菊やまにまに

秋のまにまに

まにまにまに

汗と風まにまに

涼風まにまに

まにまにまに

善きも此の世にありては

春の光の影津よりや花は

友の世をばしよと

水もあつていふも

みよき世にありては

夏菊や京の国をばし

秋の世にありては

秋の世にありては

汗と風をばしよと

清風はたよき世に

冬は白金の世に

雪は白金の世に

旅の世にありては

山

山

山

うらやまや世にありては

二升の世にありては

三升